

真の召会生活

第1週 召会生活の実行のための基本原則

標語

真実な召会生活の中では、主に対する奉仕がささげられ、主の証しが人に見られ、主に対する愛が注ぎ出されます。

これは、主のからだの真の表現であり、このからだは主を内容とし、主を表現する器です。

キリストのからだの中での神聖な命の交わり、循環は、召会生活の実際であり、神聖な命のこの循環は、キリストのからだのすべての肢体を一中へともたらしめます。

わたしたちは、キリストのからだを建造するために集会し奉仕する聖書的な道を実行するために、復興された生活を持つ必要があります、また主に対するわたしたちの愛から流れ出る牧養の労苦を持つ必要があります。

主の回復の目標は、一人の新しい人を生み出すことです。これは、わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとし、キリストで構成され、思いの霊の中で新しくされることによって、一人の新しい人の感覚の中で、召会生活を実行することを必要とします。

第1日
午前

昼

午後

夜

I コリント 1:2 コリントに在る神の召会へ、すなわち、キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち、それと共に、わたしたちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ、彼は彼らのもの、またわたしたちのものです。

啓 1:11 それはこう言った、「あなたが見ていることを巻物に書いて、七つの召会に、すなわち、エペソに、スミルナに、ペルガモに、テアテラに、サルデスに、ヒラデルヒヤに、ラオデキヤに送りなさい」。

第2日
午前

昼

午後

夜

I コリント 1:10 さて兄弟たちよ、わたしは、わたしたちの主イエス・キリストの御名を通して、あなたがたに懇願します。どうか、あなたがたがみな同じ事を語り、あなたがたの間に分裂がなく、同じ思いの中で、また同じ意見の中で調和されますように。

13 キリストは分けられているのでしょうか？パウロはあなたがたのために十字架につけられたのでしょうか？それともあなたがたは、パウロの名の中へとバプテスマされたのでしょうか？

仕事の合い間、家事の合い間、勉強の合い間等の時間を使って主の言葉を思い巡らしましょう！

そして献身を思い起こし宣告しましょう、「主よ、あなたを愛します。主よ、わたし自身をあなたにささげます！」

第3日
午前

昼

午後

夜

エペソ 4:3-6 平和の結合するきずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努めなさい。一つからだ一つ霊、それはあなたがたも、あなたがたの召しの一つ望みの中で召されたようにです。一つ主、一つ信仰、一つバプテスマ。すべてのものの神また父は一つ、この方はすべての上に、すべてを貫き、すべての中におられるのです。

第5日
午前

昼

午後

夜

I コリント 12:13-14 なぜなら、わたしたちはユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。体は一つの肢体ではなく、多くの肢体から成っています。

第4日
午前

昼

午後

夜

使徒 15:22 その時それは、使徒たちと長老たち、および全召会にとって良いと思われたので、彼らの間から人々を選び、パウロとバルナバと一緒にアンテオケに送った。……

25 わたしたちは一つ思いとなって人々を選び、わたしたちの愛するバルナバとパウロと共に、あなたがたに送るのが良いと思われました。

28 なぜなら、聖霊とわたしたちには、……良いと思われたからです。

第6日
午前

昼

午後

夜

I ヨハネ 2:20 あなたがたは聖なる方から油塗りを受けているので、あなたがたすべては知っています。

ローマ 14:1 信仰の弱い人を受け入れなさい。ただ、彼の考え方を批評することにならないようにしなさい。

真の召会生活

第2週 召会生活—キリストの中でかしらにつり上げられる生活

標語

真実な召会生活の中では、主に対する奉仕がささげられ、主の証しが人に見られ、主に対する愛が注ぎ出されます。

これは、主のからだの真の表現であり、このからだは主を内容とし、主を表現する器です。

キリストのからだの中での神聖な命の交わり、循環は、召会生活の実際であり、神聖な命のこの循環は、キリストのからだのすべての肢体を一の中へともたらしめます。

わたしたちは、キリストのからだを建造するために集会し奉仕する聖書的な道を実行するために、復興された生活を持つ必要があり、また主に対するわたしたちの愛から流れ出る牧養の労苦を持つ必要があります。

主の回復の目標は、一人の新しい人を生み出すことです。これは、わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとし、キリストで構成され、思いの霊の中で新しくされることによって、一人の新しい人の感覚の中で、召会生活を実行することを必要とします。

第1日
午前

昼

午後

夜

エペソ 1:10 時代の満了時のエコノミー [経綸]へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとされたのです。
22 また神は、万物をキリストの足の下に服従させ、そして彼を万物の上にかしらとして召会に与えられました。

第2日
午前

昼

午後

夜

ローマ 8:20-21 なぜなら、被造物が虚無に服従させられたのは、自分の意志からではなく、それを服従させた方によるのであって、それは被造物自身も、朽ち果てる奴隷状態から自由にされて、神の子供たちの栄光の自由に入る望みがあるからです。

仕事の合い間、家事の合い間、勉強の合い間等の時間を使って主の言葉を思い巡らしましょう！
そして献身を思い起こし宣告しましょう、「主よ、あなたを愛します。主よ、わたし自身をあなたにささげます！」

第3日
午前

昼

午後

夜

コロサイ 1:12-13 光の中で、聖徒たちに割り当てられた分け前にあずかるようにと、あなたがたを資格づけてくださった御父に、感謝をささげるように。御父はわたしたちを暗やみの権威から救い出して、彼の愛する御子の王国に移してくださいました。

第5日
午前

昼

午後

夜

エペソ 3:2 あなたがたのために、わたしに与えられた神の恵みの執事職について、あなたがたは確かに聞いていることでしょう。
I テモテ 1:4 作り話や果てしのない系図に、心をとめたりすることがないように命じなさい。そのようなものは、信仰の中にある神のエコノミー [経綸]ではなく、むしろ論議を引き起こすだけです。

第4日
午前

昼

午後

夜

エペソ 4:15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、わたしたちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。
I コリント 11:3 あなたがたに知ってもらいたいのですが、キリストはあらゆる人のかしらであり、男は女のかしらであり、神はキリストのかしらです。

第6日
午前

昼

午後

夜

ヨハネ 8:12 こうして、イエスは再び彼らに語って言われた、「わたしは世の光である。わたしに従う者は、決して暗やみの中を歩くことがなく、命の光を持つ」。
1:4 彼の中に命があった。この命は人の光であった。

真の召会生活

第3週 命の結果——神の建造のための宴席の家としての召会生活

標語

真実な召会生活の中では、主に対する奉仕がささげられ、主の証しが人に見られ、主に対する愛が注ぎ出されます。

これは、主のからだの真の表現であり、このからだは主を内容とし、主を表現する器です。

キリストのからだの中での神聖な命の交わり、循環は、召会生活の実際であり、神聖な命のこの循環は、キリストのからだのすべての肢体を一の中へともたらしめます。

わたしたちは、キリストのからだを建造するために集会し奉仕する聖書的な道を実行するために、復興された生活を持つ必要があり、また主に対するわたしたちの愛から流れ出る牧養の労苦を持つ必要があります。

主の回復の目標は、一人の新しい人を生み出すことです。これは、わたしたちがキリストをわたしたちのパーソンとし、キリストで構成され、思いの霊の中で新しくされることによって、一人の新しい人の感覚の中で、召会生活を実行することを必要とします。

第1日
午前

昼

ヨハネ 3:5-6 ……人は水と霊から生まれなければ、神の王国に入ることはできない。肉から生まれるのは肉であり、その霊から生まれるのは霊である。

午後

夜

12:1-2 ……イエスはベタニヤに來られた。そこには、イエスが死人の中から復活させたラザロがいた。そこで人々は、イエスのために晩餐を設けた。マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食卓に着いていた者の一人であった。

第2日
午前

昼

ヨハネ 12:1 過越の六日前に、イエスはベタニヤに來られた。そこには、イエスが死人の中から復活させたラザロがいた。

午後

夜

マルコ 14:3 さて、イエスがベタニヤにいて、らい病の人シモンの家で、食卓に着いておられた時、一人の女が、非常に高価で純粋なナルドの膏油の入った石膏の壺を持って来て、その石膏の壺を碎き、彼の頭に注いだ。

仕事の合い間、家事の合い間、勉強の合い間等の時間を使って主の言葉を思い巡らしましょう！

そして献身を思い起こし宣告しましょう、「主よ、あなたを愛します。主よ、わたし自身をあなたにささげます！」

第3日
午前

昼

ヨハネ 12:2 そこで人々は、イエスのために晩餐を設けた。マルタは給仕をしていた。ラザロは、イエスと共に食卓に着いていた者の一人であった。

午後

夜

ルカ 10:40 ところがマルタは、あれこれともてなしすることで取り乱していた。彼女は近づいて来て言った、「主よ、わたしの姉妹がわたし一人にもてなしをさせているのに、何とも思わないのですか？

第5日
午前

昼

ヘブル 11:24-26 信仰によって、モーセは成人した時、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、罪のはかない享楽にふけるよりは、むしろ神の民と共に虐待されることを選び、キリストのそしりを、エジプトの財宝にまさる富と考えました。それは、彼が褒賞をひたすら望んでいたからです。

午後

夜

第4日
午前

昼

ヨハネ 12:3-5 その時マリアは、非常に高価で純粋なナルドの膏油一リトラを取って、イエスの足に塗り、自分の髪の毛で彼の足をぬぐった。するとその家は、膏油の香りで満たされた。ところが、弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが言った、「なぜこの膏油を三百デナリで売って、貧しい人たちに与えなかったのか？」。

午後

夜

第6日
午前

昼

ピリピ 3:7-9 ……わたしにとって益であった事柄を、わたしはキリストのゆえに、損失と勘定するようになりました。しかしさらに、わたしはまた、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の卓越性のゆえに、すべての事を損失であると勘定します。その方のゆえに、わたしはすべての事で損失を被りましたが、それらをちりあくたと勘定します。それは、わたしがキリストを獲得するためであり、そして、キリストの中に見いだされるためです。……

午後

夜

エレミヤ 15:19 もし、あなたが価値のないことを言わず、尊いことを言い出すなら、あなたはわたしの口のようになる。……